

天文学の扉を開こう

5月の夜空

～月の模様～



世界の各地域では、下の図①～⑤のように見えているそうです。では、それぞれ何に見えている図でしょうか。(答えはこのページの下です)

写真は昨年11月の部分日食の日に撮影した満月です。ご覧のように月には「海」と呼ばれる黒っぽい部分があり、日本では「うさぎが餅をついている」姿といわれます。お隣の韓国でもうさぎは餅をついています。中国では「不老不死の薬を挽いている」と捉えているそうです。3国に共通しているのは月の模様がうさぎに見えているということですが、これはインドのジャータカ神話が、中国、韓国、日本へと伝わったからだと言われています。

～～ ジャータカ神話 (あらすじ) ～～

昔、あるところにウサギとキツネとサルがいました。ある日、疲れ果てて食べ物乞う老人に会い、3匹は老人のために食べ物を集めました。サルは木の実、キツネは魚をとってきましたが、ウサギは一生懸命頑張っても、何も持っていくものがありません。悩んだウサギは、「私を食べてください」と言って火の中に飛び込み、自分の身を老人に捧げました。実は、その老人とは、3匹の行いを試そうとした帝釈天という神様。帝釈天は、そんなウサギを哀れみ、月の中に甦らせて、皆の手本にしたのです。

①東ヨーロッパ



②南ヨーロッパ



③北ヨーロッパと北米



④南米



⑤アラビア



月は地球に対してほぼ同じ面を向けて回っているので、世界中どこで見ても同じ模様を見えています。ただし、地球が球体であるため、例えば東から登ってくる月を見ると緯度により模様の傾きが異なって見えます。(日本はうさぎの耳の上にして登ってきますが、北へ行くほどうさぎは時計回りに傾き、前のめりになります。逆に南に行くと反時計回りに傾いて、南半球のオーストラリアなどでは足の方が高い姿勢に見えます。)

見やすい時刻の月の模様の向きやその国(地域)の文化等により、捉え方も様々になったようです。

5月の星空

○星図の説明

15日午後9時の星空です。

月初めの午後10時頃、月末の午後8時頃にも同じ星空になります(「月」を除く)。

※16日が満月です。



27 令和4年5月1日

わが家の

アイドル



※わが家のアイドル(6カ月～4歳未満)を常時募集しています。掲載を希望される保護者の方は、役場地域振興課へお電話をください。お待ちしております。(*^_^*) ☎0279-26-7944(直通)



原 中山 朝陽さん(2歳)

ぼくの名前は「あさひ」です。朝日は必ず昇るように、志高く向上心を持って太陽の様に明るく元気に生きていってほしいという願いを込めて、両親が名付けてくれました。

ぼくの大好物は、ひいおじいちゃんが作るとっても美味しい乾燥芋です。

ほかに、車のおもちゃで遊んだりして過ごしています。

のりものが大好きで、中でも特に軽トラックが1番のお気に入りです!

お外では農作業用の一輪車を押したり、庭のお稲荷さんにお参りすることもあります。

★親子4代で賑やかに生活しています。



新田 櫻井 永艶さん(2歳)

わたしの名前は「えら」です。パパとママがつけてくれました。

わたしはやんちゃで少しドジな所もあるけれど、弟思いで優しいおねえちゃんです。時には甘えたくなくて、寝るときはママじゃないとねんねができないくらいママが必要不可欠。パパっ子モードのときは、パパにべったり。離れると寂しくて泣いちゃうんだ。それくらい家族みんなのことがだいじーいすき!

好きな食べ物は、バナナと焼きイモとラーメン。ごはんよりも麺がお気に入り! 好きな遊びは、シール遊びとすべり台とおままごとです!

★みんなを笑顔にさせてくれてありがとう。健康で元気あふれる優しい女の子に育ってね!

リトルミュージアム

「こいのぼりとかぶとを作り
ました!」



いしざか ゆうせい さん

「大きくなったら、「運転手」になりたいです!」



すだ かお さん

「大きくなったら、「看護師」になりたいです!」

こちら「地域おこし協力隊 城 智子」

こんにちは、地域おこし協力隊の城です。すっかり村の景色が色とりどりに染まり人も動物も活発になり、高山村でまた新しい季節を迎えました。村の桜の美しさに感動したり、近所の農家さんやお隣さんに山菜を頂いて春の息吹を感じたりと、ココロ躍る季節です。一方で、まだぐっと冷え込むような日もあり、農作物を育てるのにどれだけこの気候の変化が影響するんだろうと、実際に体感してより関心を持ちました。

道の駅に新しくできる「さ



家の近くの好きな風景

とのわ」のオープンに向けて、これから運営していく方たちと話し合いを重ねながら、時にはぶつかりながらも目指すところは同じ想いをもつ仲間として、一生懸命進めています。少し前には、ひまわりグループの皆さんの味噌作りに参加させてもらい、貴重な作業現場を見せて頂きました。村の逞しい女性たちが村の美味しい大豆と米を使い、丹精込めて作った味噌に今ではすっかりはまっています。

そんな体験を通して、高山村の豊かな農作物と、知識と経験豊富な先輩たちが身近な環境で、食への興味がある私としては教えてもらわないなんてそんなもったいないことはないと思います。地域の食文化の伝統を守るなんて立派なことはまだまだ言えませんが、まずは少しずつでも吸収させてもらい、発信していける活動も今後取り入れていきたいらなと思っております。引き続きよろしくお願いたします。